

平成29年度第1回臨時社会教育委員会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時 平成30年1月18日（木）午後2時～4時
- 2 開催場所 市役所4階 S3・4会議室
- 3 出席者
（委員）
藤田委員長、松木副委員長、大塚委員、松浦委員、田中委員、淵野委員、上谷委員、茂泉委員、藤巻委員、百瀬委員
（事務局）
生涯学習部長、生涯学習部次長、郷土博物館長、中央図書館長、青少年センター所長、生涯学習課長、高洲公民館長、運動公園スポーツ施設整備課長、市民スポーツ課長、青少年課長、生涯学習係
- 4 傍聴人 0人
- 5 議題
 - （1）協議事項
 - 1）社会教育委員の提言について
 - （2）その他
 - 1）次回の会議日程について
平成30年2月15日（木） 午後2時00分から午後4時00分
中央図書館 2階 視聴覚室
- 6 議事概要及び会議経過
 - （1）協議事項
 - 1）社会教育委員の提言について
社会教育委員会議からの提言にあたり、各委員から調査研究内容についての提案説明をした。
委員からの主な提案等は以下の通り。
（委員）高齢化社会にむけて、高齢者の健康面だけでなく、高齢者の知識や経験を活かし地域貢献ができる環境づくりや、市が運営管理している文化施設等の活用方法について
（委員）不登校や特別支援の子どもたちの居場所づくり、特に中学

校卒業後の青少年の居場所について また、高齢者の生活実態を把握してニーズに応えられる学習機会の提供や郷土博物館が伝統文化の継承に向けて地域の人材活用を促進できる仕組みづくりについて

- (委員) シニア世代の「技・知恵・知識」を地域や学校などに活用できる機会の提供と高齢者の生きがい創出につながる仕組みについて
- (委員) 学校現場やPTAの力をお借りして、子育てや親子のコミュニケーションなど家庭教育の振興について。また、うらやす市民大学との連携した高齢者の学びと社会参加や社会貢献について
- (委員) 浦安市民憲章をもとに、異世代交流の促進や子育て環境のあり方、シルバー世代の活用による地域社会貢献などについて
- (委員) 高齢者の知識や技術、経験を活かした異世代交流事業として、浦安の伝統・文化を小学生などに教え、継承していくような事業（オオカンケ：大歓化という）の実施について
- (委員) オオカンケとは何か。
- (事務局) 郷土博物館においては、浦安囃子保存会が中心になり、「オオカンケ」という名称で子どもたちを対象に浦安の昔体験を実施している。
- (委員) 発達障がいや不登校などを抱えた保護者と子どもの居場所づくりと、相談や話の聞き手になってくれる人材として高齢者の活躍の場とする取り組みについて
- (委員) 「うらやすっ子を支える地域の力」をテーマに、自然科学や文化芸術、スポーツなどの社会教育活動による青少年の成長支援について
- (委員) 学校、公民館、健康センター等が連携して乳幼児とのふれあい等の機会を通して、命の大切さや子育ての相談ができる家庭教育のあり方と、子どもたちへ音楽にふれる機会の拡充や発表の場を設けていける音楽の祭典の実施について
- (委員) 大学と行政との連携を深め、大学の人材や教育資産を活かした取り組みについて
- (委員) 最近の家庭の教育力についてどう思うか。
- (委員) 親の共働きや塾などの習い事により親子でコミュニケーションをとる時間については、減っているのではないかと思

う。しかし、積極的に子どもに関わろうとしている親が多く感じられ、また、家庭の教育力が下がったとはあまり感じない。

(委員) 浦安市の社会教育の課題は何か。また、社会教育活動や成果などを知りたい。

(事務局) 平成30年度より2カ年計画で、生涯学習推進計画を策定していく予定である。昨年実施した市民向けのアンケートにより、課題の整理を終えたところで、その課題解決のための施策を生涯学習策定委員会や外部有識者を交えた懇談会などで協議をしていく予定である。課題については、家庭教育や高齢化、少子化など多岐にわたっている。学びの振興や学習機会の提供、文化・芸術・スポーツの振興、学びを活かすところまでを基本的な理念として、市民とどう関わっていくかを検討していきたいところである。

各委員の提案をもとに、調査研究テーマや内容の決定と研究日程、研究の役割分担について、委員長より説明した。

(2) その他

1) 次回の会議日程について事務局より説明。

次回は、平成30年2月15日(木)午後2時00分から

場所：中央図書館 2階 視聴覚室

以上